

令和 4 年 6 月 3 日現在

機関番号：12603

研究種目：基盤研究(B) (海外学術調査)

研究期間：2017～2019

課題番号：17H04523

研究課題名(和文)ビルマの危機言語に関する緊急調査研究

研究課題名(英文)Urgent Research on Endangered Languages in Burma

研究代表者

倉部 慶太(Kurabe, Keita)

東京外国語大学・アジア・アフリカ言語文化研究所・助教

研究者番号：80767682

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 12,600,000円

研究成果の概要(和文)：言語的に多様な東南アジア大陸部のなかでも、ビルマ(ミャンマー)はとりわけ言語多様な地域である。一方で、現地調査の難しさから、多くの少数言語の調査研究が十分に進んでこなかった。本課題では、5名の研究者と2名の研究協力者が連携して、これまで渡航が難しかったビルマの諸地域を中心に集中的なフィールドワークを行った。その結果、ジンポー諸語、ラワン諸語、カヤン諸語、カレン諸語、ビルマ諸語、チン諸語など、地域・系統的に幅広い多数の研究未開発言語の調査を進めることができた。これらの成果を、語彙集、論文、国内外での研究発表などの形で公開した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

従来研究蓄積が充分でなかった多くの言語の実態を明らかにすることにより、シナ・チベット語族の共時的・通時的研究を大きく進展させることができた。本課題で対象とした少数言語は、現地コミュニティにとって重要な文化遺産であるが、近年の急速な社会変容により十分な記録のないまま消滅することが危惧されている。本課題ではその記録と保存にも取り組むことにより、学術面だけでなく社会面でも貢献を果たした。

研究成果の概要(英文)：Within mainland Southeast Asia, known for its linguistic diversity, Burma (Myanmar) is one of the most linguistically diverse regions. However, the description of many minority languages in Burma has not progressed sufficiently due to the difficulty of field research. In this project, five researchers and two research collaborators worked together to conduct intensive fieldwork in various regions of Burma, which had been difficult to travel to in the past. As a result, we were able to collect a large number of data of underdescribed Tibeto-Burman languages, including Jinghpawish, Nungish, Kayan, Karen, Burmish, and Chin languages. These results were published in the form of lexicons, articles, and research presentations.

研究分野：言語学

キーワード：チベット・ビルマ諸語 シナ・チベット語族 記述言語学 比較言語学 基礎語彙 言語接触 言語ドキュメンテーション

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

1. 研究開始当初の背景

言語的に多様な東南アジア大陸部のなかでも、ビルマはとりわけ言語多様な地域である。ビルマに分布する言語の多くは、系統的にシナ・チベット語族チベット・ビルマ語派に属する言語である。これらの言語は漢語と共通祖先を有し、東・東南アジアの言語史・民族史を解明する上で、極めて重要な役割を果たしてきた。また、ビルマのチベット・ビルマ諸語の多くは、音韻面では世界の言語の中でも特に複雑な声調や声質を発達させ、統語面では世界の言語の中でも特に複雑な動詞連続や類別詞体系を発達させるなど、そのデータは人類言語の普遍性と多様性の解明を目指す言語学の発展にも不可欠である。

一方で、政情不安による現地調査の難しさから、ビルマの少数言語の記述研究は十分に進んでこなかった。これは隣国タイなどと比べて対照的であった。しかし、2011年の民政移管以降、ビルマは海外の研究者に開かれた国となった。外国人が入域不可能であったカレン州、カヤー州、チン州などが次々と開放され、外国人研究者が現地実際に赴き、従来調査が難しかった様々な言語を対象とした調査を開始できる条件が整ってきた。以上より、研究蓄積の少ないビルマの少数言語を調査する上で過去最大ともいえる好機となった。

2. 研究の目的

これまで渡航が難しかったビルマの諸地域を中心に集中的なフィールドワークを行い、研究蓄積の乏しいチベット・ビルマ系少数言語の調査研究を進展させることを目的とした。ビルマでの豊富な調査経験を持つ5名の研究者および2名の研究協力者が連携して、ジンポー諸語、ラワン諸語、カヤン諸語、カレン諸語、ビルマ諸語、チン諸語など、地域・系統的に幅広い多数のチベット・ビルマ系研究未開発言語の調査を行う。フィールドワークにより蓄積した一次資料に基づき、語彙集編纂、音韻分析、文法記述、言語接触研究、比較言語学研究など、共時言語学と通時言語学の両面から研究を進める。

3. 研究の方法

研究蓄積の乏しい少数言語の調査を行うために、これまでアクセスが難しかったビルマの諸地域を中心に集中的なフィールドワークを行う。豊富な現地調査経験を持つ5名の研究者および2名の研究協力者が連携して、地域的・系統的に幅広く多様な言語の一次資料を効率的に収集する。倉部はカチン州にてラワン諸語およびジンポー諸語に関する調査を行う。新谷はカヤー州やシャン州にてカヤン諸語に関する調査を行う。澤田はカチン州にて北部ビルマ下位語群に属する諸言語に関する調査を行う。加藤はカレン州やバゴー地方域にて、カレン諸語に関する調査を行う。大塚はチン州やバゴー地方域にて、チン諸語に関する調査を行う。研究協力者の清水はマグウェ地方域にてビルマ語ヨー方言に関する調査を行う。研究協力者の大西はカチン州にてラワン諸語に関する調査を行う。

4. 研究成果

2017年度から2019年度にかけて、5名の研究者および2名の研究協力者が、ビルマにおける集中的なフィールドワークを行った。2017年度に計9回、2018年度に計8回の現地調査を行った。2019年度は6回のフィールドワークを行ったが、新型コロナウイルス感染拡大により、予定していたフィールドワークを一部中止せざるを得なかった。ビルマにおける集中的なフィールドワークにより、ジンポー諸語、ラワン諸語、カヤン諸語、カレン諸語、ビルマ諸語、チン諸語などを中心とした数多くの言語の調査・記録・保存を達成することができた。

収集した一次資料に基づき、語彙集編纂、論文公刊、国内外での研究発表を行った。

(1) 語彙集

ゴクー語語彙集、プリモー語語彙集、クウィンサン語語彙集、クランクー語語彙集、インタレー語語彙集、タイダイ語語彙集、マクリ語語彙集、ソンカン・カヤン語語彙集、コカック語語彙集、ドサンブ・カヤン語語彙集、センツム語語彙集、プロン・カヤン語語彙集、ラゲー・カヤン語語彙集、トタン・カヤン語語彙集、ドコンチョン・カヤン語語彙集

(2) 論文

ジンポー語声調配列に関する研究、ジンポー語の無気化と喉頭素性に関する研究、ジンポー語の重複に関する研究、ジンポー語の閉じたクラス形容詞に関する研究、ジンポー

一語動物語彙に関する研究、ジンポー諸語の軟口蓋末子音の消失と系統分類に関する研究、カチン諸語の言語接触に関する研究、ランスー語音韻論に関する研究、ランスー語借用語に関する研究、カレン祖語の声調に関する研究、カレン諸語の言語接触に関する研究、ポー・カレン語の使役と逆使役に関する研究、ポー・カレン語の数量詞遊離に関する研究、アショー・チン語の動詞複合体構造に関する研究、ラルテー語の動詞語幹交替に関する研究ほか

(3) 研究発表

ジンポー語の無気化と喉頭素性に関する研究、ジンポー語ガウリ方言の声調分岐に関する研究、タンサル語音韻論に関する研究、ツァイワ語の言語接触に関する研究、カチン地域の山名と河川名に関する研究、ロンウォー語の親族名称に関する研究、ロンウォー語トラン方言とラカウツ（ギャンノツ）方言に関する研究、タイ＝サー語に関する研究、ランスー語の言語接触に関する研究、カレン諸語の言語接触に関する研究、カレン祖語の声調に関する研究、ポー・カレン語の否定に関する研究、ポー・カレン語の逆使役に関する研究、ティディム・チン語の方向接辞に関する研究、アショー・チン語の動詞複合体に関する研究、アショー・チン語の言語接触に関する研究ほか

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計23件（うち査読付論文 14件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 16件）

1. 著者名 Atsuhiko Kato	4. 巻 n/a
2. 論文標題 Pwo Karen	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 In Alice Vittrant and Justin Watkins (eds.) The Mainland Southeast Asia Linguistic Area	6. 最初と最後の頁 131-175
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 加藤昌彦	4. 巻 n/a
2. 論文標題 ポー・カレン語の使役と逆使役	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 池田巧 (編) 『シナ = チベット系諸言語の文法現象2 使役の諸相』 (京都: 京都大学人文科学研究所)	6. 最初と最後の頁 181-203
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Atsuhiko Kato	4. 巻 50
2. 論文標題 The middle marker in Pwo Karen	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Reports of the Keio Institute of Cultural and Linguistic Studies	6. 最初と最後の頁 21-62
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Atsuhiko Kato	4. 巻 n/a
2. 論文標題 phluM chu' khlaang' De yu' we. yuiw' [カレン語と私]	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 qu' rao nuing. muing. phaw'. khlug' thuing'. [かぐわしきクラオトゥンの花(クラオトゥン村夏期カレン文字講座十周年記念文集)]	6. 最初と最後の頁 80-81
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Kosei Otsuka	4. 巻 -
2. 論文標題 The structure of verb complexes in Asho Chin	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Proceedings of the 51st International Conference on Sino-Tibetan Languages and Linguistics	6. 最初と最後の頁 735-749
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 大塚行誠	4. 巻 45
2. 論文標題 ラルテ語における動詞語幹の交替	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 言語文化研究	6. 最初と最後の頁 161-178
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.18910/71637	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Keita Kurabe	4. 巻 36
2. 論文標題 Repetition and reduplication in Jinghpaw	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Kyoto University Linguistic Research	6. 最初と最後の頁 1-19
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.14989/230685	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Keita Kurabe	4. 巻 21(3)
2. 論文標題 Tone and syllable weight: The tonotactic asymmetry in Jinghpaw	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Journal of the Phonetic Society of Japan	6. 最初と最後の頁 15-21
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.24467/onseikenkyu.21.3_15	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Keita Kurabe	4. 巻 11(1)
2. 論文標題 The loss of the proto-velar finals in Standard Jinghpaw	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Journal of the Southeast Asian Linguistics Society	6. 最初と最後の頁 1-12
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Keita Kurabe	4. 巻 12
2. 論文標題 The GRAID-annotated Jinghpaw corpus: Annotations and initial findings	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Asian and African Languages and Linguistics	6. 最初と最後の頁 37-73
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Keita Kurabe	4. 巻 12
2. 論文標題 A classified lexicon of Jinghpaw loanwords in Kachin languages	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Asian and African Languages and Linguistics	6. 最初と最後の頁 99-131
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 倉部慶太	4. 巻 95
2. 論文標題 ミャンマーの「こぶ取り爺さん」：ジンポー語による民話テキスト	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 アジア・アフリカ言語文化研究	6. 最初と最後の頁 181-200
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Keita Kurabe	4. 巻 153
2. 論文標題 Deaspiration and the laryngeal specification of fricatives in Jinghpaw	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Gengo Kenkyu	6. 最初と最後の頁 41-55
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.11435/gengo.153.0_41	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Hideo Sawada	4. 巻 20
2. 論文標題 The phonology of Lhangsu, an undescribed Northern-Burmish language	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Contribution to the Studies of Eurasian Languages (CSEL)	6. 最初と最後の頁 381-404
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Atsuhiko Kato	4. 巻 n/a
2. 論文標題 Entailed and intended results in Japanese and Burmese accomplishment verbs	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Prashant Pardeshi and Taro Kageyama (eds.) Handbook of Japanese Contrastive Linguistics	6. 最初と最後の頁 173-192
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Atsuhiko Kato	4. 巻 n/a
2. 論文標題 Burmese	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Tasaku Tsunoda (ed.) Levels in Clause Linkage: A Crosslinguistic Survey	6. 最初と最後の頁 571-613
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Atsuhiko Kato	4. 巻 49
2. 論文標題 How did Haudricourt reconstruct Proto-Karen tones?	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Reports of the Keio Institute of Cultural and Linguistic Studies	6. 最初と最後の頁 21-44
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Keita Kurabe	4. 巻 n/a
2. 論文標題 Animal nomenclature in Jinghpaw	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 In Norihiko Hayashi (ed.) Topics in Middle Mekong Linguistics	6. 最初と最後の頁 75-95
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Keita Kurabe	4. 巻 38
2. 論文標題 Where have all the adjectives gone? The case of Jinghpaw	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Kyoto University Linguistic Research	6. 最初と最後の頁 29-47
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.14989/250190	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Atsuhiko Kato	4. 巻 n/a
2. 論文標題 Karen and surrounding languages	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 In Norihiko Hayashi (ed.) Topics in Middle Mekong Linguistics	6. 最初と最後の頁 123-150
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Atsuhiko Kato	4. 巻 51
2. 論文標題 A note on the quantifier float in Pwo Karen	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Reports of the Keio Institute of Cultural and Linguistic Studies	6. 最初と最後の頁 173-188
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 澤田英夫	4. 巻 n/a
2. 論文標題 北部ビルマ下位語群の言語ランスー語の借用語	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 藤代節 (編) 『ユーラシア諸言語の動態 : 言語の多様性と類型と混成言語』	6. 最初と最後の頁 97-124
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計47件 (うち招待講演 1件 / うち国際学会 26件)

1. 発表者名 Kosei Otsuka and Keita Kurabe
2. 発表標題 The cis- and translocative prefixes in Tiddim Chin and Jinghpaw
3. 学会等名 International workshop "Directional prefix in Tibeto-Burman languages" (ILCAA, Tokyo University of Foreign Studies) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 倉部慶太
2. 発表標題 ジンポー語における閉じたクラスとしての形容詞
3. 学会等名 2018年度ユーラシア言語研究コンソーシアム年次総会 (京都大学文学研究科附属ユーラシア文化研究センター)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Keita Kurabe
2. 発表標題 Reported speech in Jinghpaw
3. 学会等名 SCOPIIC - TUFS 2019 Workshop (ILCAA, Tokyo University of Foreign Studies) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 倉部慶太
2. 発表標題 危機文化アーカイブPARADISECとミャンマーにおける言語ドキュメンテーション
3. 学会等名 情報資源利用研究センター (IRC) ワークショップ「危機言語アーカイブと言語ドキュメンテーション」(東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 倉部慶太
2. 発表標題 ジンボー語の名詞修飾表現
3. 学会等名 Prosody & Grammar Festa 3 (国立国語研究所)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 倉部慶太
2. 発表標題 ジンボー語の動詞連続：複文との対照
3. 学会等名 フィールド言語学ワークショップ：第14回文法研究ワークショップ「動詞連続の諸問題」(東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 倉部慶太
2. 発表標題 ジンポー語における動詞連続構文の制約
3. 学会等名 日本語学会第157回大会（京都大学：予稿集 88-93）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 倉部慶太
2. 発表標題 ジンポー語における名詞化と名詞修飾節
3. 学会等名 国立国語研究所共同研究プロジェクト「名詞修飾構文の対照研究」2018年第2回共同研究会（神戸大学）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Keita Kurabe
2. 発表標題 Reported speech and thought in Jinghpaw
3. 学会等名 SCOPIC Canberra Workshop 2018 (The Australian National University) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Keita Kurabe
2. 発表標題 The small closed adjective class in Jinghpaw
3. 学会等名 The 51st International Conference on Sino-Tibetan Languages and Linguistics (Kyoto University) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 倉部慶太
2. 発表標題 ジンポー語における語頭鼻音の成節性
3. 学会等名 日本語学会第156回大会（東京大学：予稿集 331-336）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Keita Kurabe
2. 発表標題 A reevaluation of the discourse basis of ergativity based on a GRAID-annotated Jinghpaw corpus
3. 学会等名 The 28th Meeting of the Southeast Asian Linguistics Society (Wenzao Ursuline University of Languages, Kaohsiung, Taiwan) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 澤田英夫
2. 発表標題 タイ=サー（マインター）語の音韻体系概観
3. 学会等名 2018年度ユーラシア言語研究コンソーシアム年次総会（京都大学文学研究科附属ユーラシア文化研究センター）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Hideo Sawada
2. 発表標題 Comparing a few grammatical aspects of Northern Burmish languages
3. 学会等名 The 51st International Conference on Sino-Tibetan Languages and Linguistics (Kyoto University) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 加藤昌彦
2. 発表標題 ポー・カレン語の数量詞遊離
3. 学会等名 メコン川中流域を中心とした諸言語の言語実態と変容プロセスの研究 2018年度第1回研究会（慶應義塾大学言語文化研究所）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Atsuhiko Kato
2. 発表標題 The Anticausative in Pwo Karen
3. 学会等名 The 51st International Conference on Sino-Tibetan Languages and Linguistics (Kyoto University) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 加藤昌彦
2. 発表標題 ポー・カレン語の事象キャンセル
3. 学会等名 東南アジア諸言語研究会（慶應義塾大学言語文化研究所）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 加藤昌彦
2. 発表標題 ポー・カレン語の「文語体」について
3. 学会等名 AA研共同利用・共同研究課題「文法の動的体系性を探る（1）：文法の多重性と分散性」（東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Kosei Otsuka
2. 発表標題 The structure of verb complexes in Asho Chin
3. 学会等名 The 51st International Conference on Sino-Tibetan Languages and Linguistics (Kyoto University) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Jeremy Perkins, Villegas Julia, Seunghun J. Lee, and Kosei Otsuka
2. 発表標題 Using psychoacoustic roughness to measure creakiness in Burmese
3. 学会等名 The 5th NINJAL International Conference on Phonetics and Phonology (National Institute for Japanese Language and Linguistics) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Keita Kurabe
2. 発表標題 Eclipse as an areal calque in East and Southeast Asia
3. 学会等名 LAL-seminars (The University of Melbourne) (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Keita Kurabe
2. 発表標題 The laryngeal specification of fricatives in Jinghpaw
3. 学会等名 La Trobe Sino-Tibetan day (La Trobe University) (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 大塚行誠・倉部慶太
2. 発表標題 ティディム・チン語とジンポー語における方向接辞の対照
3. 学会等名 日本言語学会第155回大会 (立命館大学)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 澤田英夫
2. 発表標題 ビルマ語群北部下位語群の未記述言語
3. 学会等名 チベット=ビルマ言語学研究会第41回会合 (京都大学文学部)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Hideo Sawada
2. 発表標題 Overview of multi-verb constructions of Standard Lhaovo
3. 学会等名 Linguistics Seminar (The University of Melbourne)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Hideo Sawada
2. 発表標題 Examining grammaticalization in Lhaovo
3. 学会等名 Workshop on Grammaticalization & Language Contact in Asia and Beyond (Nanyang Technological University) (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Hideo Sawada
2. 発表標題 Northern Burmish languages and Burmese
3. 学会等名 Workshop 'Language in Early Burma' (SOAS, University of London) (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Hideo Sawada
2. 発表標題 Two Undescribed Dialects of Northern Burmish Sub-branch: Gyanno' and Tho'Ihang
3. 学会等名 The 50th International Conference of Sino-Tibetan Languages and Linguistics (Fragrant Hill Hotel, Beijing) (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 加藤昌彦
2. 発表標題 隣接言語との関係から見たカレン語の語順と借用語
3. 学会等名 メコン川中流域を中心とした諸言語の言語実態と変容プロセスの研究 (神戸研究学園都市UNITY)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 加藤昌彦
2. 発表標題 ビルマ語の mermaid construction
3. 学会等名 慶應義塾大学東南アジア諸言語研究会 (慶應義塾大学)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 澤田英夫
2. 発表標題 ロンウォー語の親族名称
3. 学会等名 ユーラシア言語コンソーシアム2017年度総会 (京都大学ユーラシア文化研究センター)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Atsuhiko Kato
2. 発表標題 How did Haudricourt reconstruct Proto-Karen tones?
3. 学会等名 International Seminar on Languages and Linguistics in Middle Mekong Region (神戸研究学園都市UNITY) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 加藤昌彦
2. 発表標題 ビルマ語の事象キャンセル
3. 学会等名 慶應義塾大学東南アジア諸言語研究会 (慶應義塾大学)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Keita Kurabe
2. 発表標題 Tonogenesis in Gauri Jinghpaw
3. 学会等名 The 29th Meeting of the Southeast Asian Linguistics Society (KFC Hall) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Keita Kurabe
2. 発表標題 Documentation of the endangered oral tradition of the Kachin people in northern Burma
3. 学会等名 The 52nd International Conference on Sino-Tibetan Languages and Linguistics (The University of Sydney) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Keita Kurabe
2. 発表標題 A preliminary report on the Tangsar language
3. 学会等名 The 25th Himalayan Languages Symposium (The University of Sydney) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Keita Kurabe
2. 発表標題 Zaiwa in Kachin contact linguistics
3. 学会等名 The 1st Workshop on linguistic and cultural diversity in the Northeast India-Myanmar-Southwest China region (NTU) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Keita Kurabe
2. 発表標題 Oronyms and hydronyms in Burma
3. 学会等名 The 1st Meeting of Geolinguistic Society of Japan (Aoyama Gakuin University) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Keita Kurabe and Lu Aung
2. 発表標題 Kachin Orature Project: Documentation, maintenance, and revitalization of the oral heritage in northern Myanmar
3. 学会等名 International Year of Indigenous Languages 2019: Perspectives Conference (Purdue University Fort Wayne) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Atsuhiko Kato
2. 発表標題 Loanwords in Karen from a historical perspective
3. 学会等名 Mekong Linguistics Meeting (Keio University)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Atsuhiko Kato
2. 発表標題 Mermaid construction in Burmese
3. 学会等名 Theoretical Linguistics at Keio 2019: Myanmar Linguistics, State of the Art (Keio University) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Atsuhiko Kato
2. 発表標題 Negation in Pwo Karen
3. 学会等名 STL meeting (Kyoto University)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Kosei Otsuka
2. 発表標題 Burmese loanwords in Asho Chin
3. 学会等名 Theoretical Linguistics at Keio 2019: Myanmar Linguistics, State of the Art (Keio University) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Kosei Otsuka
2. 発表標題 The influence of Burmese on Asho Chin grammar
3. 学会等名 The 1st Workshop on linguistic and cultural diversity in the Northeast India-Myanmar-Southwest China region (NTU) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Hideo Sawada
2. 発表標題 Preliminary report of Tai Hsa, a Northern Burmish language spoken by a Shan tribe
3. 学会等名 The 52nd International Conference of Sino-Tibetan Languages and Linguistics (The University of Sydney) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Hideo Sawada
2. 発表標題 Loanwords in Lhangsu, a Northern Burmish language in Kachin State
3. 学会等名 The 1st Workshop on linguistic and cultural diversity in the Northeast India-Myanmar-Southwest China region (NTU)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Hideo Sawada
2. 発表標題 The effects of borrowing on Lhangsu, a Northern Burmish language of Kachin State.
3. 学会等名 Theoretical Linguistics at Keio 2019: Myanmar Linguistics, State of the Art (Keio University) (国際学会)
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計16件

1. 著者名 SHINTANI Tadahiko L.A.	4. 発行年 2018年
2. 出版社 Research Institute for Languages and Cultures of Asia and Africa (ILCAA)	5. 総ページ数 xxiv+268
3. 書名 Linguistic Survey of Tay Cultural Area No.117 The Makuri Language	

1. 著者名 SHINTANI Tadahiko L.A.	4. 発行年 2018年
2. 出版社 Research Institute for Languages and Cultures of Asia and Africa (ILCAA)	5. 総ページ数 xxv+268
3. 書名 Linguistic Survey of Tay Cultural Area No.118 The Sonkan Kayan Language	

1. 著者名 SHINTANI Tadahiko L.A.	4. 発行年 2018年
2. 出版社 Research Institute for Languages and Cultures of Asia and Africa (ILCAA)	5. 総ページ数 xxiv+268
3. 書名 Linguistic Survey of Tay Cultural Area No.119 The Kokak Language	

1. 著者名 SHINTANI Tadahiko L.A.	4. 発行年 2018年
2. 出版社 Research Institute for Languages and Cultures of Asia and Africa (ILCAA)	5. 総ページ数 xxv+268
3. 書名 Linguistic Survey of Tay Cultural Area No.120 The Dosanbu Kayan Language	

1. 著者名 加藤昌彦	4. 発行年 2019年
2. 出版社 白水社	5. 総ページ数 180
3. 書名 ニューエクスプレスプラス ビルマ語	

1. 著者名 SHINTANI Tadahiko L.A.	4. 発行年 2017年
2. 出版社 Research Institute for Languages and Cultures of Asia and Africa	5. 総ページ数 xxii+267
3. 書名 Linguistic Survey of Tay Cultural Area No.111 The Gokhu Language	

1. 著者名 SHINTANI Tadahiko L.A.	4. 発行年 2017年
2. 出版社 Research Institute for Languages and Cultures of Asia and Africa	5. 総ページ数 xxiii+267
3. 書名 Linguistic Survey of Tay Cultural Area No.112 The Blimaw Language	

1. 著者名 SHINTANI Tadahiko L.A.	4. 発行年 2018年
2. 出版社 Research Institute for Languages and Cultures of Asia and Africa	5. 総ページ数 xxiii+267
3. 書名 Linguistic Survey of Tay Cultural Area No,113 The Khwingsang Language	

1. 著者名 SHINTANI Tadahiko L.A.	4. 発行年 2018年
2. 出版社 Research Institute for Languages and Cultures of Asia and Africa	5. 総ページ数 xxiii+267
3. 書名 Linguistic Survey of Tay Cultural Area No.114 The Khrangkhu Language	

1. 著者名 SHINTANI Tadahiko L.A.	4. 発行年 2018年
2. 出版社 Research Institute for Languages and Cultures of Asia and Africa	5. 総ページ数 xxiii+267
3. 書名 Linguistic Survey of Tay Cultural Area No.115 The Yingtalay Language	

1. 著者名 SHINTANI Tadahiko L.A.	4. 発行年 2018年
2. 出版社 Research Institute for Languages and Cultures of Asia and Africa	5. 総ページ数 xxiii+268
3. 書名 Linguistic Survey of Tay Cultural Area No.116 The Thaidai Language	

1. 著者名 SHINTANI Tadahiko L.A.	4. 発行年 2019年
2. 出版社 Research Institute for Languages and Cultures of Asia and Africa	5. 総ページ数 xxv+268
3. 書名 Linguistic Survey of Tay Cultural Area No,121 The Sen Tsum (I-Mok) Language	

1. 著者名 SHINTANI Tadahiko L.A.	4. 発行年 2019年
2. 出版社 Research Institute for Languages and Cultures of Asia and Africa	5. 総ページ数 xxv+268
3. 書名 Linguistic Survey of Tay Cultural Area No,122 The Phulon Kayan Language	

1. 著者名 SHINTANI Tadahiko L.A.	4. 発行年 2019年
2. 出版社 Research Institute for Languages and Cultures of Asia and Africa	5. 総ページ数 xxv+268
3. 書名 Linguistic Survey of Tay Cultural Area No,123 The Lagu Kayan Language	

1. 著者名 SHINTANI Tadahiko L.A.	4. 発行年 2019年
2. 出版社 Research Institute for Languages and Cultures of Asia and Africa	5. 総ページ数 xxv+268
3. 書名 Linguistic Survey of Tay Cultural Area No,124 The Totan Kayan Language	

1. 著者名 Research Institute for Languages and Cultures of Asia and Africa	4. 発行年 2019年
2. 出版社 Research Institute for Languages and Cultures of Asia and Africa	5. 総ページ数 xxv+268
3. 書名 Linguistic Survey of Tay Cultural Area No,125 The Dokhoncon Kayan Language	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	加藤 昌彦 (Kato Atsuhiko) (30290927)	慶應義塾大学・言語文化研究所(三田)・教授 (32612)	
研究分担者	澤田 英夫 (Sawada Hideo) (60282779)	東京外国語大学・アジア・アフリカ言語文化研究所・教授 (12603)	
研究分担者	新谷 忠彦 (Shintani Tadahiko) (90114800)	東京外国語大学・その他部局等・名誉教授 (12603)	
研究分担者	大塚 行誠 (Otsuka Kosei) (90612937)	大阪大学・言語文化研究科(言語社会専攻、日本語・日本文化専攻)・講師 (14401)	

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	清水 美里 (Shimizu Misato)	大阪大学 (14401)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	大西 秀幸 (Onishi Hideyuki)	東京外国語大学 (12603)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関